

「はじめに」

特定非営利活動法人エス・アイ・エヌ「集いの場あゆみ」では、広島市の障害者福祉サービス事業を活用した生涯学習支援に取り組んでいます。2016年9月から広島市地域活動支援センターⅡ型事業を活用して、就労している知的障害者の生涯学習や余暇活動の取組を本格的に開始しました。

2018年4月には文部科学省 生涯学習政策局（現在は、総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課）が進める、学校卒業後の障害者について、効果的な学習プログラムや実施体制等に関する実証的な研究開発と成果の普及に向けた「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に応募し採択をされ、今年度も引き続き委託事業に取り組んでいます。

昨年度は「自立を学びあう生涯学習講座Ⅱ」のテキストを作成し、障害者の自立に向けた学習プログラムの支援策の一つとして報告をいたしました。

今年度も、集いの場あゆみの主催する学びの講座で実践をした内容を元に「自立を学びあう生涯学習講座Ⅲ」学習プログラムの作成を行いました。

このプログラムは、昨年度の「安全・安心」をテーマにした内容から、今年度は「自立と支援」をテーマにした内容で作成をしました。障害者の社会参加と自立が言われる中で、本人自身が自立の意味を考え、就労や生活を支援する機関や相談支援の実際を学び、自分の地域や周囲の環境に目を向けることで支援との関係を知る学びの講座テキストとなっています。

具体的な柱立てとしては、「自立と支援について」「就労・生活支援について」「相談支援について」「地域生活を支えるについて」に沿った構成をしました。

講座テキストは、昨年同様に分かりやすい表現で、漢字等へのルビ、絵や写真を交えた視覚支援、グループワークやロールプレイを交えた演習で構成しています。そして、支援者が取り組むときの参考にするための「支援の手引き」も作成しています。

テキストの内容は、各講座の講師の個性や思いを尊重しているために、表現法や字体に差異が見られるかもしれませんが、それぞれの講座の中で一部、内容が重複をしている部分もあるかもしれませんが、繰り返し学ぶ中で、より理解を深め、関連を知りながら学ぶ必要があると考えています。合わせて支援が、連携や協力によって成り立つことも学んでほしいと思っています。

また、今年度はテキストの作成と共に、障害者の多様な学びに関する実践の理解を広げるための啓発・普及や学びを活かした発表の場への参加にも取り組みました。

例えば、障害者の生涯学習に関する講演会の実施や、文部科学省の主催する『共に学び、生きる共生社会コンファレンス』での実践発表への参加、広島市男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）の交流会への参加、地域（広島）で活躍する音楽家による『Life いのち上演実行委員会』の主催による“令和新春

コンサート”への参加など啓発・普及活動や社会的な場への参加にも取り組むことができました。

最後になりましたが、文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の委託事業により、「自立を学びあう生涯学習講座Ⅲ」の製本が実現し、新たな活動への挑戦へとあゆみ始めることができました。

今後も、障害者の自立に向けての学びが意味ある支援として発展するよう実践研究に取り組んでいきたいと思っています。

尚、表紙の写真は、2019年度のあゆみアート部による制作の季節のアート作品です。

特定非営利活動法人「エス・アイ・エヌ」
集いの場あゆみ 所長 草羽 俊之

【今年度の新たな取組】

「障害者の多様な学びの実践」の啓発と普及に向けて

今年度は、昨年度の取り組みに引き続き、さらに土・日の文化的な講座の活動プログラムに流行りのヒップホップ系の『ダンス講座』と、誰でも気軽に楽しめる『スポーツ講座』の活動を加えました。この2つの活動は利用者からの希望が高かった内容で、新たに今年度から始めた講座です。

ダンス講座での取り組みでは、社会的な活動へ発展させたゆいぽーと（男女共同参画推進センター）の行事への参加。また、音楽の講座講師が主催する本格的なコンサートへの出演をし、地元で活躍している音楽家との共演も実現するなど、集いの場あゆみの活動を地域社会に理解を広げる第1歩とすることができました。

ちなみに、発表会やコンサートの出演用で着用するライムとイエロー色のあゆみのロゴ入りTシャツも作りました。

次に、障害者の生涯学習支援についての研修をする機会として講演会も実施しました。「集いの場あゆみ」が文部科学省の委託事業による実践研究に取り組んでいる現状や、「集いの場あゆみ」で日々取り組んでいる活動の内容に関しては、様々な機会を通して発表や報告を行ってききましたが、十分に周知されていないのが実状です。初の試みとして行った講演会の取り組みを通して成果や課題も把握することができました。

そして、文部科学省の主催するブロック別コンファレンスにも分科会やポスター会場での発表機会をいただきました。3つのブロック（東海・北陸ブロック、四国・九州・沖縄ブロック、近畿・中国ブロック）での発表を通して全国に発信をすることもできました。（近畿・中国ブロックポスター発表資料 [5] 参照）

上述したように、今年度の取り組みは講座の文化活動の発表を通して、積極的に社会参加を進めたり、「障害者の生涯学習」の講演会を通して学習機会をつくったりして、認知を広げる活動が行えたことで、今後の「障害者の多様な学びの実践研究の推進」に向けた啓発と普及を進めるステップになったと思います。

以上の取り組みによる活動報告と成果と課題について以下のように報告をします。

[1] 「講演会の実施」～共に学びを広げよう～

講演会「障害者の生涯学習支援について」の開催

エス・アイ・エヌでは、障害のある人たちの生涯学習について、現状や課題の研修を深めるために、2019年10月6日に、鳥取短期大学教授國本真吾先生を講師として招聘し講演会を開催しました。國本先生は鳥取大学の「オープンカレッジ in 鳥取」や「鳥取大学付属特別支援学校の専攻科」、また「全国障がい者生涯学習支援研究会」「全国専攻科研究会」などに関わりをもち、障害者の生涯学習支援に関しての造詣が深い先生です。中国地方のみならず、全国の情報にも精通する國本先生には、今後の「集いの場あゆみ」の実践にも役立つお話を期待した講演会の企画でした。

また、この講演会では、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室の主任、井口啓太郎様からも現在の文部科学省の取り組みやその進捗状況に関しての御報告をいただくことができました。

そして、これまで「集いの場あゆみ」の取り組みに関する十分な報告をする機会をもつことができませんでしたので、併せて実践報告もいたしました。

講演会当日は、広島県・市の教育委員会生涯学習課からの担当者にも参加をいただき共に学習をする機会にもなりました。

講演会の企画当初は、広島市内を中心に活動をしている障害者の文化活動や余暇活動などに取り組む障害福祉サービス事業所や団体にも呼びかけ、情報交流会も企画していましたが、日程の調整が合わず参加可能な事業所が少なく実施できませんでした。

しかし、國本先生による「障害者の生涯学習支援」に関する講演会と二つの報告を行うことができました。初めての講演会としては予想以上の参加者が会場に足を運んでいただけたことと、希望者によるランチミーティング（昼食交流会）にも多くの参加があり、それぞれの立場で思いや発言をしていただくことができました。

以下、講演会の概要とそれぞれの講演と報告の資料を掲載します。

1. 講演会の概要

(1) 日程

2019年10月6日（日）10時～14時

【実践報告】 「集いの場あゆみの生涯学習支援の取組」

集いの場あゆみ 所長 草羽俊之

【文部科学省】 「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」

障害者学習支援推進室 主任 井口啓太郎

【講演会】 「障害者の生涯学習支援について」

講師：鳥取短期大学 教授 國本真吾

* 講演会・報告資料は [5] 参照

- 講師を囲んでのランチミーティング(昼食交流会)(12時～13時30分)
- 昼食交流会終了後に希望者は「集いの場あゆみ」(会場から徒歩5分程度)の施設見学を実施。

(2) 参加者の概要

○ 講演会参加者の所属等の内訳

広島県生涯学習課、広島市生涯学習課、大学、特別支援学校、大学病院、育成会、障害者福祉サービス事業所(相談支援事業所、自立訓練事業所、ヘルパー事業所、移動支援事業所、グループホーム)、家族会、青年教室支援者、ダンス講師、社会福祉法人施設職員、成年後見人(保佐人)、集いの場あゆみ利用者と家族、エス・アイ・エヌ法人職員、大学生ボランティア等

参加者の総人数は64人でした。

2. 参加者のアンケートから(アンケートの内容は、ほぼ原文を掲載し、重複する内容は一つにまとめました。)

(1) 実践報告『集いの場あゆみの生涯学習支援』

【一般参加者】

- ・集団で活動する中で、「主体的、対話的で深い学び」とつながると感じた。
- ・集いの場あゆみの取り組み、活動内容、設立目的などがよく分かった。また、これまでの経過がよく分かった。
- ・利用者の活動の様子が生き生きとしていて、とても良かった。特にヨガやクッキングの写真が良かった。
- ・スライドによる具体的な活動内容の報告がイメージしやすかった。
- ・社会の中で職場、住居以外にこのような活動の場所や仲間がいる場所があるとは素晴らしいです。
- ・長い歴史の中で積み重ねて今があることを学ぶことができた。当事者の生活目線で活動されてきたので内容が豊かである。
- ・立地条件がとても良い。
- ・いつも細かな変化を見て、柔軟に対応していただき感謝です。
- ・学びの場から憩いの場に共感した。
- ・自分自身も余暇の充実があってこそ意欲につながるのもそれぞれの余暇がこの場でできたらいいなと感じた。
- ・長きにわたる実践に基づき、現在の活動であることが分かった。
- ・学びも、学び合いも仲間との出会いも大切だと感じた。

【利用者】

- ・あゆみは1番初めの時代は「こいこいクラブ」の時代から始まって次々と変わって今のあゆみにつながったと思いました。
- ・今日はいい勉強でした。今まで習ってきたことの映像を見て、今までのこと思い出しました。

- ・草羽さんの話が分かりやすかったです。
- ・いろいろな障害者の集まりの会のことが詳しく聞けて良かったです。いろいろな勉強になってよかったし、現実的な話が聞けて良かった。
- ・すごくいい話が聞かれて、もっといい方向に行くと思う。
- ・あゆみの生涯学習支援の話の勉強ができた。
- ・話が楽しかった。
- ・講座の写真が良かった。
- ・生涯学習支援の話が分かりやすかった。
- ・地域活動支援のこともすばらしいと思ってます。

(2) 文部科学省の報告『障害者の生涯を通じたような多様な学習活動の充実』

【一般参加者】

- ・障害があることで豊かな人生の選択をすることがままならない方の支援を国を挙げて動き出したんだなと言うのがわかり、今後の動向が気になった。
- ・「共生社会」「障害者の生涯学習」について明確な推進をしていることを心強く思った。
- ・国の政策としていろいろな取り組みがあることが分かった。
- ・国の施策展開を知ることができた。支援の継続を望む。
- ・国の障害者の支援は学校まで、または20歳までという思いがありました。その後にも目を向けられ政策になっていくことを感じた。
- ・もう少し詳しく聞きたかった。
- ・学校卒業後の若年層が中心となっている様子と感じた。熟年層、高年層にもこういう場があっても良いのではないか。
- ・国としてのスタンス、今後の方針を聞いたのは心強く感じた。
- ・文科省の支援に関する実践研究事業者への委託事業費が計上されていることを知った。
- ・効果的な手法の構築と他機関を指導していただきたい。

【利用者】

- ・いろいろと視野を広めていく大切さを知りました。
- ・学校を卒業したときに国が一生懸命に障害者の気持ちを考えてくれているのが分かった。
- ・障害者の生涯学習について話を聞きました。すごく考えたいと思いました。
- ・なかなか障害者の話を聞くことがないのできょういろいろな人たちと勉強できて良かったです。もっと障害者の学習についてしたかったです。すごく難しかったです。
- ・話を聞いていやなことを思い出したりいいこともあったかなと思いだしたりしました。
- ・すごくいい勉強をしました。すごく考えないと、いけないと思いました。

(3) 講演【障害者の生涯学習支援について】

【一般参加者】

- 横のつながりが大事なことなんだと思った。学習が学校教育のみではなく生涯を通じて権利として求めて保障していく大切さ、行われるべきであることを理解し障害者に対してその機会を援助していく必要があると感じた。
- 学校教育に「生涯学習」の考えや、生活の一部として活動を取り入れることの必要性にも共感した。そういった重要性も認識してほしい。
- 講演内容はよく理解できたが、現実的には難しいのではないかと思った。
- 障害者の生涯学習について今までよく分かっていなかった。話が分かりやすく良かったです。ぼんやりとした認識でしかなかったので具体的にお話をいただき理解が深まり、イメージや発想の転換ができた。
- 当事者の方に楽しみながら人生を豊かにする方法を得てほしいと思った。
- 学校在学中からの学校外活動との往還的な発展の重要性を感じた。
- 「学校の学び、学校卒業後の学び」「生涯学習の権利」働く時間以外の過ごし方、お金の使い方モチベーションの維持、生き甲斐、楽しみ方が大切だと思った。
- 障害者に限ったことではなく人間皆に大事なテーマであるなど改めて実感した。私も学校時代を含め生涯学習であると思った。
- 草羽さんの長年の取り組みと國本先生の共通性を感じた。
- 学びの力を発揮するため、生涯学習と学校教育の場を往復することが広がることの大切さを学ぶことができた。新たな視点を持つことができた。
- 研究者のケースカンファレンスから体系的に生涯学習の重要性を伺えたのは良かったです。
- 本人が今の時代をどう楽しく生きるか、将来のために人が好きに、人に好かれる人間になれるのか、生涯学習に多方面から考えさせられた。
- 障害者の生涯学習について、理解するためにそれぞれの立場から報告・講演がとても充実していた。
- 学びの保障、発達権の保障の場の必要性がよく分かった。生き生きとした生活のために、あゆみのような場がたくさん地域にできるとよいと感じた。
- また、機会があればぜひ参加したい。
- 文化、芸術、スポーツ以外の学習があっても良いのでは？
- 地域活動支援のこともすばらしいと思ってます。

【利用者】

- 今からもっと成長していきたいと思いました。
- なかなか話を聞くときがないので、生涯学習の支援についての話が聞けてよかった。話し方がくわしく、わかりやすく聞けてよかったし勉強になりました。
- 女の子がステージに上がってしたことや大人になっての映像も良かった。
- 國本先生の話わかりやすかったです。
- 鳥取県に住んでいる1人の女の子が商学部のころに興味をもちだして、中学部では沖縄ダンスにかかわって現在はアートで働いているのが勉強にな

りました。

- ・今まで勉強したことや自分では習わなかった勉強や、あゆみの行事やまつりで楽しかったことが今日の話でわかりました。
- ・いろいろなことがわかってよかったです。
- ・いろいろな活動の話や沖縄の活動のことが詳しく聞けて勉強になりました。
- ・映像を見てかしこくなりました。
- ・すごくいい勉強をしました。先生の話がとてもよくわかりました。ビデオも楽しかったです。感動しました。
- ・障害者のこれからの生活のことを考えてくれているのがわかった。
- ・過去の古傷のところが少し複雑に思いました。

(4) その他

【一般参加者】

- ・今回の講演会の内容は障害者の生涯学習について理解するためにそれぞれの立場からの報告・講演でとても充実したものでした。ありがとうございました。
- ・中学（当時養護学級）の同窓会の月1回の集いを20年続けています。（施設見学、レク、季節行事等）ここ10年は外部支援者の参加はなくメンバーも固定で5名程度の状況です。わが子は全く不参加ですが調理の時には支援に入っています。
- ・いろいろと話を聞いてよかったです。
- ・もっと、生涯学習について知りたかった。いろいろな人と交流ができないので交流したいと思いました。
- ・いつかまたあったらいいです。
- ・「パブリカ」や「恋のフォーチュンクッキー」が踊りたいです。
- ・障害者の生活のことでこれからどんな方法で考えるのか知りたい。
- ・他者の尊重をすることの内容が知りたいです。

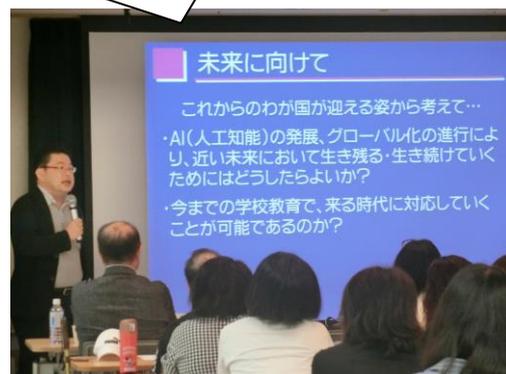


文部科学省井口さんの報告。国も頑張っています。



集いの場あゆみの実践報告。活動写真もあり、利用者は大喜び。

國本先生のビデオを交えながらの講演。わかりやすいと好評でした。



[2]「文化活動による社会参加Ⅰ」

～ともに喜び、楽しみをつなげる表現活動～

『令和新春コンサート2020』～時代は夢とともに～

への出演

令和2年1月5日(日)JMS アステールプラザ中ホール(約500名収容)
12名の歌手と2団体によるコンサートに出演をしました。

1. コンサート出演の概要と取組

このコンサートの主催者は坂井けい(以下、けいさん)さんでした。

けいさんは、「集いの場あゆみ」の音楽の講座で講師として、あゆみの仲間
に表現活動や歌唱の指導をしていただいています。

「令和新春コンサート2020」への出演は、けいさんからあゆみに出演依
頼をいただき実現しました。このコンサートは『Life いのち上演実行委員会』
の主催による、広島で活躍するプロ・アマの歌手の皆さんのコンサートです。
けいさんから参加のお誘いを受けて、一緒にあゆみの仲間が音楽の講座で取り
組んでいる「365日の紙飛行機」の曲をコンサートの出演者の皆さんと一緒に
合唱をすることになりました。

日頃は、あゆみの仲間だけで歌っている曲を、文化複合施設「アステールプ
ラザ」の大舞台で他の出演者の皆さんと共演できたことは、大きな経験と刺激
を受ける機会になりました。あゆみの出演者は19名(支援者2名)でした。

コンサートに向けての出演者の皆さんとの練習は、リハーサルも含めて2回
でした。初めての練習では、歌手、スタッフの皆さんとの出会いの中で、お互
いを知り合うために、小グループに分かれての自己紹介から始まりました。や
や緊張もほぐれ、練習が始まりました。一つ一つの動きや表現にも気を配るけ
いさんの迫力ある舞台演出に緊張感をもって参加しました。普段の音楽の講座
のときにも視線、姿勢、表情など一人一人の仲間の良さを引き出してくれるけ
いさんの言葉や表現が、リハーサルのときも同じように伝わってきました。

本番では、共演者の皆さんのあゆみの仲間語り掛けるような歌声と、傍で
そっと背中を押してくれた支え手、温かく優しさあふれる視線があゆみの仲間
を包み込んで「365日の紙飛行機」の大きな歌声となりました。合唱の最後の
観客席に向けて飛ばした紙飛行機の手投げパフォーマンスも、きっと観客の皆
さんの心にも届いたのではないかと思います。

音楽の講座を通しての坂井さんとの付き合いは3年にも及んでいます。コン
サート経験や合唱練習が多いとは言えない中で、けいさんの個性的な指導によ
って築いてきた関係性によって、あゆみの仲間一人一人がありのままの自分
を出せる舞台表現になったと感じるステージでした。



出演者みんなで大合唱
「365日の紙飛行機」



講師の上田彩さんが、傍で寄り添ってくれて嬉しそう。



大きな歌声、感情たっぷりの表現にも力がはっています。



みんなで、紙飛行機を遠くまで飛ばしました。

2. コンサート出演者及びお客様の感想（感想の内容は、本人の表現に沿って掲載し、重複する内容は一つにまとめました。）

【主催者】 坂井けいさんの感想

あゆみの皆様と一緒に舞台を務めさせていただきました。「Life いのち」そのままだと思います。「創る」という場をいただきまして、人間（ひと）そのままだが美しいという事、そしてそのままだが在る。そのままでいい。という事。

先（さき）、輝くいのちの共演ができました。嬉しく思いました。

そして、舞台発表を終えて、初めての音楽・表現の講座に来させていただき、皆さんが美しくなられていた事に感動しました。

(1) 舞台共演者からの感想

- ・楽しかった。すごく緊張してびっくりしたけど、最後まで歌えてよかったです。
- ・ふつうでした。特別なことではなく、あたりまえの感覚で一緒に歌っていて楽しく歌えました。
- ・私たちの方もそのままを受け入れてもらえて嬉しかった。これがあたりまえ、これが本当の世界なんだと思いました。
- ・日常の、いろんな人がいろんな息づかいで生きている様子が、そのまま舞台上で表現されていて「日常のひとコマ」という感じがして嬉しかった。

(2) お客様からの感想

- ・それまでの流れから、彼らがでてきたとき自然に涙があふれてきた。感動した。
- ・楽しそうに歌われているのを嬉しく思いました。
- ・特別支援学校時代の生徒さんが、こういう場でコンサートに出演することができることに素晴らしく思いました。
- ・いきいきと歌っているのを見て嬉しく思いました。

(3) あゆみの出演者からの感想

- ・ワクワクドキドキ感があったけど、歌い終わったら気持ち良かった。
- ・緊張したけど、会場の人たちがいっぱい応援してくれたので良かった。
- ・楽しかった。
- ・ひこうき飛ばせて良かった。
- ・リハーサルの時は緊張したけど、本番では自然に体が動いて手話も取り入れてできたので良かったです。また出たいです。
- ・リハーサルの時は緊張したけど、本番では気楽にやることが出来た。
- ・ふたりのおかげでこういう機会をもらえたことがとても良かった。また、お願いします。
- ・こういうステージに出たのは初めてだったけど、緊張もしたけどみんなが居たから出れて良かったです。
- ・緊張もしなくて、とても良かったです。

[3]「文化活動による社会参加Ⅱ」

ゆいぽーと協議会交流会 ステージ発表・展示発表へ参加

1. ステージ発表の取組 ～楽しくはじける笑顔のダンシングの輪～

(令和2年2月16日)

『あゆみんな ダンシングチーム』

昨年度初めて、ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）で利用登録

団体の交流会（以下、ゆいぽーとの発表会）に参加をしました。昨年度は、音楽の講座で練習をしている合唱曲を発表しましたが、今年度は新しく加わったダンス講座のヒップホップ系のダンスを発表することになりました。

ダンス講師は、広島で活躍する“障害の有無にかかわらず歌やダンスを通してすべての人がやりがいや居場所を見つけられるグループ「HIROXILE（ヒロザイル）」のジョーさんとショウゴさんです。ジョーさんはヒロザイルのリーダーで、ショウゴさんはボーカル&ダンサーの役割を担っている2人です。

ダンスは2019年6月から毎月1回のペースで講座として取り組むようになりました。当初はあゆみのダンス仲間の希望を聞いて、エグザイルやダパンプの曲に合わせたダンスでした。今回は、ゆいぽーとへの発表会（以下発表会）が決まってから、ダンス講師の2人が講座の参加者に「どんな曲で踊りたいか」相談したところ、みんなが知っている「パプリカ」と盛り上がる「ラッタッタ（Rat-tat-tat）」の曲になりました。

1曲目に、ラッタッタは、『J SOUL BROTHERS』の曲で昨年USJのアトラクションで大流行した曲、2曲目には、だれもが親しみのある2020年の応援ソングとして制作された『パプリカ』になりました。

「ダンスは苦手」「振り付けが覚えられない」「体がうまく動かない」「リズムについていけない」などなど、最初は、いつ「ダンスは済（す）んだ」になりはしないかとハラハラ、ドキドキの講座のスタートでした。参加者の年齢も20代前半から40代後半の幅広い世代の12名前後です。

ですが、ジョーさんとショウゴさんの2人のダンス講師は、ただものではありませんでした。2人のダンスパフォーマンスを見て、参加者は「そのステップどうやるの!」「その決めポーズを教えて!」「僕にもできる技はあるかな?」などなど、夢見るダンサーの世界に入っていました。

でも、ここで上手に「ダンスの前にちょっと待って。」と言えるのが本物のダンサー、ジョーさんです。まずは、みっちりストレッチ30分。基本はここから、「足がつったり、腰を痛めたりするからね。」と言われて、さらにプラス、簡単な体幹トレーニングが加わります。

体がほぐれたところで、いよいよレッツダンス。

練習では、難しい動きの振り付けはこのように伝えています。

「～♪誰かが呼んでいる～♪」で、“両手の平から顔の横出し”は『ひょっこりはん』。その後すぐに『ワッショイ』の掛け声で屈伸! 「♪～遊びまわり、日差しの道～♪」では、『お熱ないのにムニャムニャ～』と額に手を当てポーズです。体の動きとリズムを合いの手（掛け言葉）を重ねることで、笑いもつかみながら、リズムにのって、楽しみながらダンスを覚えていきました。

速い動きはシンプルに、楽しい動きはビッグに、振りを忘れたときはスマイ

ルでゴメン、回転ステップは代わりに手振りにと、裏技もたくさん教えてもらいました。

舞台での発表当日は、代表の4人がラップ調でグループ紹介をしました。
(^)♪『今から ダンスが 始まるよ 障害ある人ない人も 一緒に 楽しむ
ダンスだよ』♪

(^)♪『僕たち 休みは ダンスに音楽 ヨガもゆいぽーとで やってるよ』
♪

(^)♪『ダンスの曲は パプリカ ラッタッタ みんなも 合わせて 盛り上が
ろうぜ』♪

(^)♪『サー！始まるぜ カッコよく レッツ ダンシング あゆみんな』♪

オープニングで、突然、全員がサングラスをかけて格好良く登場、会場内がざわつく中、ラッタッタの曲が始まると、軽快なダンスがジョーさんやショウゴさんに教えてもらった裏技の振りも交えながら始まりました。

この曲は USJ のアトラクションやハロウィンで大いに盛り上がった曲で、特にゾンビになりきった振り付けは参加者が思い思いに考えた表現でした。観客の皆さんからも、「あー、あれ・・・」「それ、それ・・・」など、囁かれながら、笑い声も聞かれながら喜ばれていました。

次のパプリカでは、難しい振り付けを何度も練習しては、改良の繰り返しでした。観客の皆さんもよく知っている曲なので、手拍子をしながらリズムと表現を楽しんでもらえました。3番では、会場へも降りて行ってロボットダンスをしながら観客の皆さんとハイタッチをし、みんなで盛り上がりました。

ダンスの講座では当初、ダンスはやってみたい気がするけどどうまくできるかどうか心配が先立ち尻込みしていました。しかし、講師のジョーさんとショウゴさんはダンスの楽しさを引き出すために、振り付けを一緒に考える過程で一人一人のパフォーマンスを作り上げてくれました。そういった活動によって、本人たちが自信をもつようになり、モチベーションをあげていけるようになりました。

そして、舞台発表に向けて、一人一人がダンサーとして堂々と表現できるように振り付けの支援をしていきました。

また、ダンスを舞台だけの発表だけで終わらず、観客と一緒に一体化した参加型の演出により舞台から踊りながら降りていき、ハイタッチや握手をしながら行うパフォーマンスワールドにすることで共に楽しめる発表へとつながりました。(発表会参加者は9人のあゆみんなダンサーと4人の支援者でした)



ラップで「あゆみんな」の紹介
が始まるよ。緊張した～



🕒 サングラスかけて、みんなも
手拍子、かっこよく踊ったよ！



パプリカ、だれもが知ってる曲と、
合いの手言葉で「ひょっこりはん」



最後は会場に降りて、みんなでハイ
タッチや握手、楽しく 大交流！

2. 展示発表の取組 ～感じた心を色に、伝えたい思いを形に～ (令和2年2月16日～2月23日)

『あゆみアート部』

今回の発表会では、ダンスの発表だけではなく、当日参加ができないあゆみの仲間の作品展示（1週間の展示期間がありました）も行いました。展示作品は普段ウィークデイに利用する仲間が中心となってそれぞれの得意な分野の作品作りをしました。

平日に「アート」や「もの作り」をしている個人やグループで制作した作品を発表会で展示をしました。展示された作品のタイトルごとに紹介をします。

『北風と太陽』は仲よし女子の二人組がイソップ童話の中から2人がよく知っている話で、話の内容に共感して刺し子とパッチワークを取り入れた共同制作をしました。物語の場面を6枚に分けて登場人物や情景を手作りしました。またシナリオも一緒に考えて作成しました。

『甲冑・刀・日本の文化』は、お城の見学や歴史が好きな男子が、大河ドラマでの明智光秀に思いを寄せて布と紙を使った切り絵を制作しました。

『やさいの収穫』は、自分（女子）がナスや大根を収穫している場面を、鳥や立て看板等の情景描写をして、多彩な布や紙を使って切り絵で制作しました。

『みどりのヒマワリ』は、いろいろな色を使っていくうちに、緑が好きな僕だから、みどりのヒマワリになったそうです。

『春が来た！！』クロスステッチの方法で、かわいらしいクマさんの図案の作品を作りました。私の姪が今年初めて受験をしました。合格への願いを込めて作りました。完成した日に合格の連絡がありました。作品の完成と合わせて、二重の嬉しい日になりました。4月から楽しい学校生活を送ってほしいと願って展示します。

『こいのぼりのひらき』はアート部の部長（男子）の作品です。美術館で見た作品に魅せられて、自分も作ってみたいくなりました。カープのこいにも思いをのせているうちに、五月の節句で子どものこいも続いています。（原画は1匹の大きい鯉でした）



3. ゆいぽーと発表会の感想（感想の内容は、本人の表現に沿って掲載し、重複する内容は一つにまとめました。）

（1）参加者の感想

- 他の団体の歌や演奏発表をきけて楽しかったです。僕の貼絵も展示されていた嬉しかったです。
- あゆみのみんなの踊りがとても良かった。他の団体の人のダンスも良かった。

たです。まんざいの発表もおもしろかった。展示もよくできていた。

- ・ダンスが明るくて元気が出た。僕も来年はダンスをして舞台に立ちたい。
- ・あゆみみんなのダンスかっこよかった。
- ・Kさんの「北風と太陽」の作品は良かった。他の人の作品も見れてよかった。
- ・パプリカの曲はよく知っているのでダンスも楽しかった。いろいろな団体が歌った平和の歌やダンスもおもしろかった。
- ・みんなすごいなと思った。
- ・私も踊りたくなってパプリカを前に出てダンスができたことが嬉しかった。いろいろな作品も見れてよかった。ダンスの中のゾンビダンスもおもしろかった。また、いつかやりたいです。

(2) あゆみみんなダンシングチーム出演者の感想

- ・ラッタッタでサングラスをかけて踊ったのがかっこよかった。緊張したけどみんなの前でダンスができて楽しかった。
- ・ダンスチームのみんなで出れてよかった。僕はラップもやれて嬉しかった。仕事の疲れがとれた。リラックスできた。今度は USA をやりたいと思った。
- ・緊張したけど、みんなと踊ることができた。いろんな人と（会場に降りて行って）ハイタッチをすることができて良かった。
- ・緊張もせずみんな笑顔で楽しかったです。ジョーさん、しょうごさん、ありがとうございます。
- ・ラップでのセリフかんじゃった。次はマルモリをやりたいです。
- ・ラッタッタとパプリカを楽しくできたので、もっとダンスをやりたくなった。楽しく汗をかけた。
- ・緊張したけどうまくできた。
- ・うまくできたので、また、あゆみで出る発表会に出たい。
- ・硬くなったけど自分ができるところをやっていきたいと思った。またダンスのグループで発表があったら出たい。

[4] 取組の成果と課題

1. 社会参加と共生社会

あゆみの仲間の中には、「人が多いところが苦手」「初めての人には会うのが怖い」「交通機関を使うのは1人では無理」などの配慮が必要な発達障害の特性のある人がいます。さらに、複数の障害を併せもつ人もいます。コンサートや発表の場は、多くの健常者と言われる人たちとの交流や活動を共有することができる場になります。

このような機会は、社会参加の経験を積むことで自信がもてたり、やりがいを感じたりすることができます。一方では、障害のある人の中には、社会参加を急いで進めると躊躇したり、抵抗を感じたりする人もいます。

また、発達障害や精神障害のある人の中には、無理に押し進めることで二次障害へと発展していったケースもあります。つまり、社会参加を進めるときには十分な配慮や支援が必要になります。

「集いの場あゆみ」では利用者1人1人の障害特性について、あゆみの活動の中で把握したり、本人との話の中で困り事や心配事などを聞いたりして必要な配慮や支援を考えます。また、本人の心配や不安を取り除きながら参加の意思を丁寧に確認して進めていきます。

音楽やダンスの講座は月に1回の講座です。「集いの場あゆみ」では、取り組む目標を高く掲げたり、活動回数を無理に増やしたりはしません。質の高さを上げるために、性急にハードルを高くすることは参加者の意欲を損なったり、無理を強いたりすることもあるからです。

生涯学習支援にとって大切なことは、自分のペースで活動できるように、時間をかけて丁寧に焦らず、無理のない目標で楽しみながら取り組むことだと思います。「集いの場あゆみ」を休日に利用することで、リフレッシュできるような居心地の良い場になれるよう心掛けています。

2. 学びの普及と啓発

法人の主催で「障害者の生涯学習支援」の講演会の実施は初めてでした。

当初は広島で障害のある人たちの文化活動や余暇活動の取り組みに力を入れている法人や団体にも呼び掛けて、講演会と情報交流会を兼ねての開催を考えていましたが、日程上の理由で参加が困難な法人・団体が増える中、やむなく「集いの場あゆみ」の利用者やその家族、身近な関係者を対象にした研修としての講演会にしました。

しかし、講演会の呼びかけの中で行政をはじめ、大学教員、障害者福祉サービス事業者、福祉・医療の専門家、など多くの参加がありました。

また、文部科学省からも主任の御出席をいただき、講演会と報告（文部科学省と集いの場あゆみ）がセットになったことで充実した内容になり、多数の参加者から好評でした。（アンケート内容からの評価）

また、昼食交流会（ランチミーティング）においても、27名の参加がありました。一人一人の所属なども交えながら自己紹介と講演会の感想、講師・発表者への質問なども含めて交流ができる有意義な時間となりました。

また「集いの場あゆみ」に移動しての見学では、利用者がグループ活動で楽しんでいる様子の見学や、1階と4階のそれぞれの場での活動概要の説明をして見学会をすることができました。

当初の講演会の企画していた情報交流会に参加のお願いをした法人施設や団体は、広島市内を中心に文化活動や余暇活動の取組に力を入れているところです。それぞれが、アート芸術や音楽・ダンス、ものづくり、余暇活動などの取組を地域社会に発信をする独自のプログラム企画をもっていたり、県・市の障害者の文化活動やイベントにも積極的に展示・発表したりする施設や団体です。

現在、文部科学省が進める「障害者の生涯学習の推進」についての情報や連携・協力の意義などの発信や周知と同時に、ネットワーク化を図る目的の明確さが求められているのではないかと感じました。

また、すでに行政（県・市）などで取り組まれている障害者の文化活動やイベントなどに社会参加をする機会が、近年は急速に増えています。社会参加の選択肢が増えるとともに、障害福祉サービス事業所にも芸術活動や余暇活動の支援の取組が少しずつ見られるようになっていきます。民間のカルチャー教室やサークル活動、スポーツジムなどを利用する障害者も見られるようになってきました。まさに障害者の社会参加が多様になってきたとも言えます。一方では身近にそのような機会がある人は、まだ限られているとも言えます。

まずは、地方自治体が中心となり、国の障害者の生涯学習の推進に関する取り組みを地域の障害者の関係団体・施設に周知させるとともに、文化活動や余暇活動に取り組んでいる事業所や団体を把握すること、それぞれの活動の内容の情報共有と交流をする場を作ることが大切なのではないかと考えます。

同時に、これまでの文部科学省が調査した「障害者本人等への学校卒業後の学習活動に関するアンケート調査資料」や「実践研究事例」などを、特別支援教育分野や障害福祉分野の関係機関と連携をとって、障害者の生涯学習支援の視点を共有する活動に向けての協議を始めることを期待しています。

【5】講演会・報告・発表資料 等（以下の資料を順に掲載）

- 「障害者の生涯学習支援について」 ～生涯にわたる学びを権利として～
鳥取短期大学 教授 國本 真吾

- 「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」
文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室
主任 井口 啓太郎

- 「集いの場あゆみの生涯学習支援」
特定非営利活動法人エス・アイ・エヌ
集いの場あゆみ 所長 草羽 俊之

- 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」
近畿・中国ブロックポスター発表
『集いの場あゆみの活動Ⅰ』 『集いの場あゆみの活動Ⅱ』
特定非営利活動法人エス・アイ・エヌ
集いの場あゆみ 所長 草羽 俊之

- 「講座と余暇活動の内容と日程」（2019年4月～2020年3月）